

7 管内酪農家におけるアルコール不安定乳 の発生事例

京都府山城家畜保健衛生所

○森田 誠 濃添照雄

【はじめに】平成21年8月管内酪農家2戸でアルコール不安定乳により生乳を廃棄する事例が発生し、NOSAI家畜診療所と協力して調査及び指導を実施した。

【発生概要】発生時期は両農家とも同時期で、アルコール検査陽性牛の頭数はA農家が搾乳牛16頭中7頭（43.8%）、B農家が31頭中21頭（67.7%）であった。

【調査結果】①血液生化学的性状検査では両農家ともグルコース及びBUNが低値であった。②発生状況の聞き取り調査から、直接の原因として気温の急変の他、A農家は暑熱による濃厚飼料摂取量の減少、B農家は飼料内容・品質の変更及び自動給餌機の故障による濃厚飼料給与回数・量の減少が推測された。③両農家ともバルク乳の乳蛋白率及びMUNが低値で推移しており、飼料中のエネルギー及び蛋白質の不足が続いていたことが発生の要因であると考えられた。

【指導結果】調査結果に基づく飼料改善指導の結果、A農家は9月に全頭陰性となったが、B農家については血中グルコース及びBUNは回復傾向にあるものの12月になっても陽性牛が認められた。

【考察】アルコール不安定乳の原因は環境や飼料等多岐にわたり、発生すると改善に長期間を要するため、バルク乳検査結果を指標とした適切な飼料給与や春先からの暑熱対策等の予防対策が重要と考えられる。